

広島県庁舎の戦災復興

平成25年6月24日(月)～9月28日(土)

昭和20年(1945)8月6日の原爆被災により、広島市水主町(現在の中区加古町)にあった広島県庁舎は灰燼に帰した。同日夕方に、県防空本部が比治山町の多聞院に設置され、翌7日には下柳町(現在の中区銀山町)の東警察署に拠点を移して、救援活動が行われた。8月20日からは、安芸郡府中町の東洋工業の一部を仮庁舎として戦後処理に当たったが、広島市霞町の旧広島陸軍兵器補給廠を庁舎として利用することになり、昭和21年7月15日に移転した。

この庁舎は、レンガ造りの倉庫を事務室に改修したもので、執務環境は悪く、修繕費が年々かさんで、地理的にも不便であった。昭和28年2月定例県議会に、新庁舎建設促進についての発議書が提出され、これを受けて大原博夫知事は財源確保のため国と折衝し、新庁舎の建設に踏み切った。こうして、昭和31年4月、基町の西練兵場跡地に新庁舎が落成し、広島戦災復興の象徴的建造物として注目を集めた。

本展では、この度当館へ移管された広島県行政文書や、県職員等から寄贈・寄託を受けた資料を通して、広島県庁舎の戦災復興の歩みを跡付けてみたい。(担当：荒木 清二)

1 広島市街地図(複製・部分) 広島市役所 昭和13年9月 [長船友則氏収集資料 200407-866]

戦前の広島県庁舎は広島市水主町(現在の中区加古町)に所在し、西は県立広島病院、南は与楽園(もと広島藩主の別邸)に接していた。また、霞町の広島陸軍兵器支廠(昭和15年に広島陸軍兵器補給廠と改称)は、戦後県庁舎として利用されることになる。現在の県庁舎の敷地(基町)には、西練兵場があった。



2 戦前の広島県庁舎（左）

3 戦前の広島県会議事堂（右）大正 15 年頃 [『広島県写真帖』所収, (複製) 県広報写真 S05-2002-108-10-11]

広島市水主町にあった広島県庁舎の本館は、明治 11 年 (1878) 4 月に竣工したもので、敷地面積約 7,000 坪、建坪 576 坪 (付属建物を含む)。県会議事堂は、県庁舎の南側に隣接して、明治 43 年 (1910) 10 月に建設されたもので、建坪 309 坪。いずれもルネッサンス式木造 2 階建の瀟洒な建造物であった。



4 [絵葉書] 広島県庁 (複製) [長船友則氏収集資料 200407-1104~1107]

戦前の広島県庁舎の写真が掲載された絵葉書 4 枚。いずれも表門と本館正面周辺を写したもので、絵葉書の住所・宛名欄の印刷様式の違いから、刊行年代が分かる。また、門柱、付属建物、電線、樹木の状況の違いも、撮影年代を推定する手がかりになる。



明治 33 年~39 年



大正 7 年~昭和 7 年



大正 7 年~昭和 7 年 (右上より後年)



昭和 8 年~19 年

5 [絵葉書] 広島県会議事堂（複製）[長船友則氏収集資料 200407-1108・1109]

戦前の広島県会議事堂の写真が掲載された絵葉書2枚で、印刷様式から刊行年代が推定できる。



明治40年～大正6年



明治40年～大正6年

6 被爆後の広島県庁舎（左）

7 被爆後の広島県会議事堂（右） 昭和20年末頃 [県行政文書 S01-2009-738 所収]

原爆被災により、爆心地から約900mの位置にあった広島県庁舎は壊滅し、表門の門柱だけが残された。隣接する県会議事堂も全壊し、瓦礫の山と化した。これらの写真は、被爆後と復興期の広島市内の様子を写した写真アルバム2冊（広島県土木建築部計画課所蔵、平成21年度に土木総務課から移管）の中にも含まれていたものである。



8 現在の加古町（アステールプラザ・広島市文化交流会館）（左）

9 広島県職員原爆犠牲者慰霊碑（右） 平成25年6月9日撮影

戦前に広島県庁舎や県立広島病院などが所在した水主町（現在の加古町）には、戦後広島市中央卸売市場が設けられ、現在ではアステールプラザや広島市文化交流会館などが立地している。

アステールプラザ西側の本川堤防上には、広島県職員原爆犠牲者慰霊碑が建立されている。原爆被災により、県庁舎や県の関係機関において、1,141名もの県職員が犠牲になった。



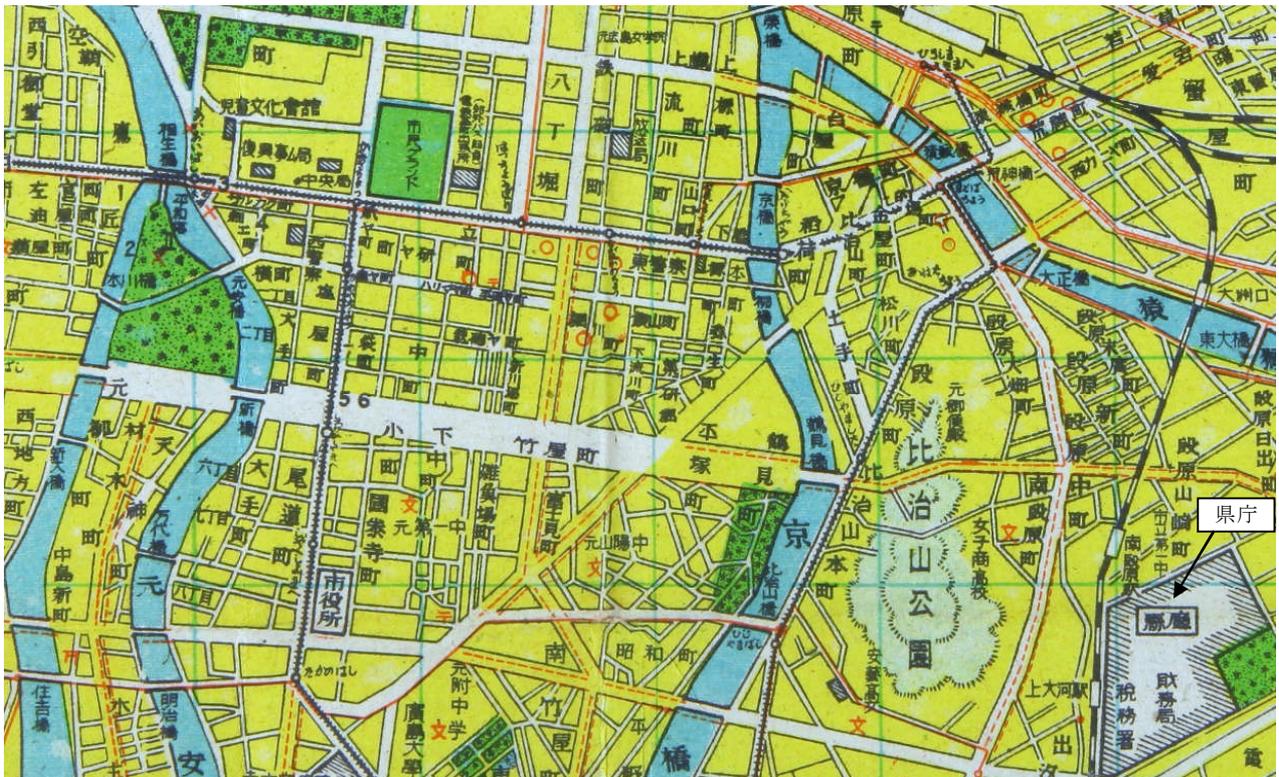
10 広島県有財産表 昭和 20～21 年 [県行政文書 (旧長期保存文書) 100353 所収]

昭和 20 年 9 月から 21 年 9 月までの間に調製された「広島県有財産表」で、被爆後の県有財産の状況をうかがうことができる。県庁舎は、大芝町にあった警察部の建物を除いて「戦災焼失」し、県会議事堂については「付属地共戦災焼失」と記載されている。また、新たに庁舎として利用することになった霞町の建物坪数が赤字で書き込まれている。

11 復興大広島市地図 (複製・部分) 塔文社 昭和 24 年 5 月 [長船友則氏収集資料 200407-875]

昭和 21 年 7 月 15 日から、広島市霞町の旧陸軍兵器補給廠が県庁舎として利用された。ここでは、中国財務局や広島国税局などの国の機関も入居し、最寄駅である国鉄宇品線の^{うしな}上大河駅は、通勤客で賑わったという。

なお、水主町の旧県庁跡地を南北に貫く道路 (現在の市道中島吉島線) が書かれているが、この地図で黄色に塗られた道路は都市計画予定線であり、この時点では開通していない。また、現在の県庁舎の敷地 (基町) は、市民グラウンドとして利用されていたことが分かる。



12 広島県庁舎 (6 号館) (左)

13 広島県庁舎 (6 号館・玄関) (右) [広島築港百年史編纂委員会資料 (藤原信雄殿所蔵写真) 200307-277]

霞町の県庁舎は、旧広島陸軍兵器補給廠の兵器倉庫を事務室用に改修したもので、主に 8 棟の建物を本庁舎として利用した。このうち、正門近くにあった 6 号館には、知事公室や総務部の事務室などが置かれた。



14 広島県庁舎（県議会議事堂地鎮祭）昭和24年

[坊 敏之資料 200105]

霞町の県庁舎は、独立したそれぞれの建物に各部の事務室が分散して配置され、渡り廊下もなかったため、各部間の連絡が非効率で、雨天の場合は特に不便であった。この写真は、昭和24年に県議会議事堂が建設されたときの地鎮祭の様子。



15 広島県議会議事堂（左）

16 広島県議会議事堂内部（右）昭和24年頃

[坊 敏之資料 200105]

霞町への移転当初は、5号館の一角に県議会関係の部屋が割り当てられ、議場は奥まった薄暗い一室に置かれたが、昭和24年に5号館と6号館の間に議事堂が新築された。議事堂は木造2階建てで、2階に渡り廊下を設けて5・6号館と結び、議場は1階と2階を吹抜けにして天井を高くしていた。



17 部対抗秋季運動会 昭和21年

[中島 弘資料 200106-11]

昭和21年秋に、地元の小中学生を招いて開催された、広島県庁の部対抗秋季運動会の写真。レンガ造り2階建の建物が並列する構内の状況がよく分かる。





18 「広島県庁」銘板前に立つ県職員 昭和 21 年 [中島 弘資料 200106-12]

知事公室や総務部の事務室が置かれた 6 号館には、屋根付きの車寄せが新設され、玄関に「広島県庁」の銘板が掛けられた。

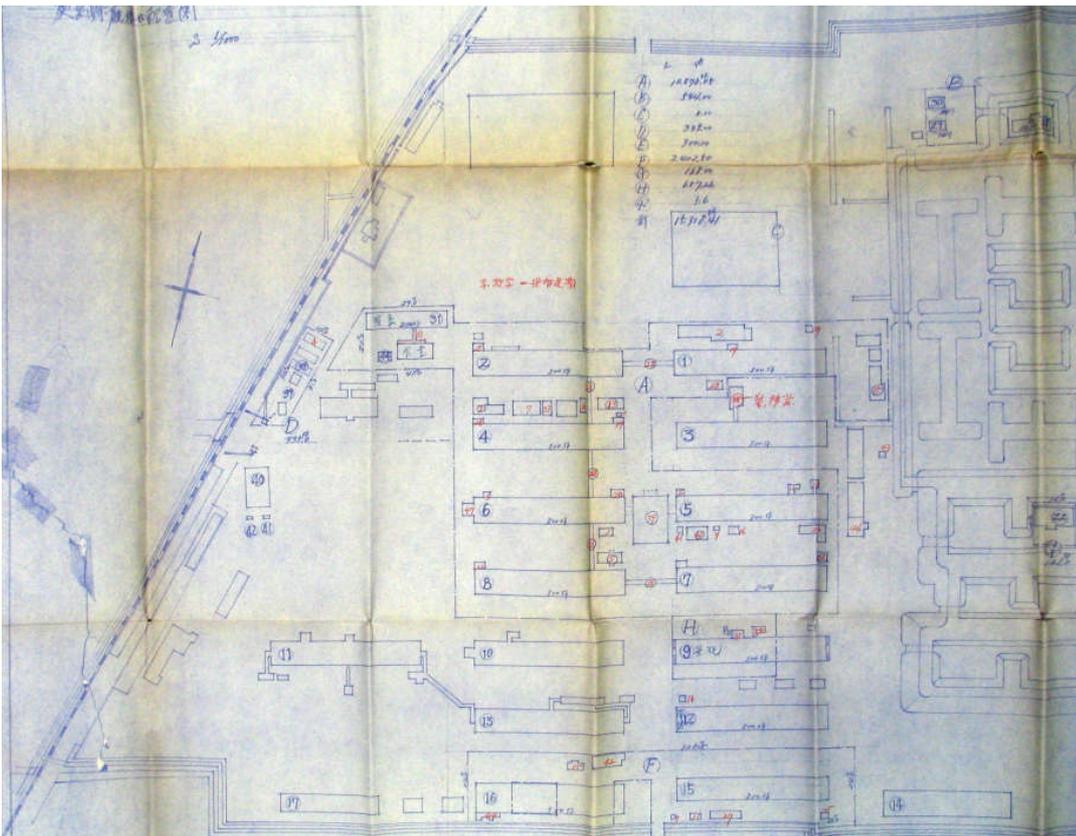
19 ^{にっこう}日鋼争議（県庁に押しかけたデモ）昭和 24 年 6 月 18 日
[県行政文書 S01-2012-1527 所収]

昭和 24 年に実施された財政金融引締め政策（ドッジ・ライン）によって、日本経済は深刻なデフレ不況に陥り、企業の人員整理の動きが全国的に広がった。日本製鋼所広島製作所では、6 月 2 日に全従業員の 1/3 以上に及ぶ 730 人の人員整理案を発表したため、労働組合が反発し、争議に突入した。占領軍も介入し、県内では戦後最大規模の労働争議となった。この写真は、6 月 18 日に霞町の県庁に押しかけたデモの様子を写したものである。



20 広島県庁構内配置図 昭和 31 年 [県行政文書（旧長期保存文書）100400 所収]

「県庁構内県有建物及国有財産内造作評価調書」（昭和 31 年 2 月調製）に添付された霞町の広島県庁構内配置図（○付きの数字は各棟の番号）。県は昭和 21 年以来、国有財産の旧兵器倉庫を借用、30 年末までに 50,918 千円をかけて改修・増築を行い、庁舎として整備した。1～8 号館が本庁舎として利用され、9・12・14～16



号館等も県の関係機関が利用した。なお、10・11・13 号館には、国の機関である中国四国建設局、広島国税局、中国財務局がそれぞれ入居した。

霞町県庁舎主要各棟の利用状況（昭和31年4月現在）

号館	部名・機関名	号館	部名・機関名
1	建築部・商工部・土木部(営繕課)	8	経済部・農地部
2	土木部・陸運事務所	9	県税事務所
3	中国管区警察局・広島県警察本部	12	消防学校・県警察学校
4	教育委員会事務局	14	県警察学校武道場
5	県議会事務局・衛生部	15	県印刷所・職業補導所
6	総務部・(会計・用度課)・広島銀行	16	補導所・修理工場・自動車車庫
7	民生部・労働部	※ 5・6号館の間の建物は県議会議事堂	

21 広島県庁舎貸付申請経過書 昭和26年 [県行政文書（旧長期保存文書）100400所収]

終戦後、中国地方行政事務局長を兼任していた楠瀬常猪^{くすのせつねい}広島県知事は、壊滅後の県庁舎を、当面の間、旧広島陸軍兵器補給廠に置くのが最も良策と考えた。そこで、当時この建物を共同管理していた広島財務局長らと協議の上で特殊物件処理委員会に諮り、昭和21年2月に庁舎として利用することが決定された。その際には、国有財産であるこの建物の無償貸付について、国の了解を得ていたという。しかし、23年8月に大蔵大臣に無償貸付を申請したところ、現行法規では不可として却下され、使用料を納付することになった。

22 広島大学霞キャンパス・大学病院（左）

23 広島大学医学部医学資料館（右） 平成25年6月9日撮影

昭和31年4月、広島県庁舎は基町に移転し、霞町の旧庁舎建物は国に返納された。この建物は、翌32年9月から広島大学医学部の校舎として利用されたが、新校舎や病院の整備に伴って次々と取り壊され、最後に残った11号館を改装して、昭和53年に医学資料館が設置された。しかし、この建物も、新病棟の整備に伴って、平成11年3月に解体された。現在の資料館は、旧11号館の被爆レンガや石材をできるだけ再利用し、ほぼ完全な形で外観を復元したものである。



24 県庁舎建設地（旧西練兵場）の経過 昭和28年12月 [県行政文書（旧長期保存文書）100439所収]

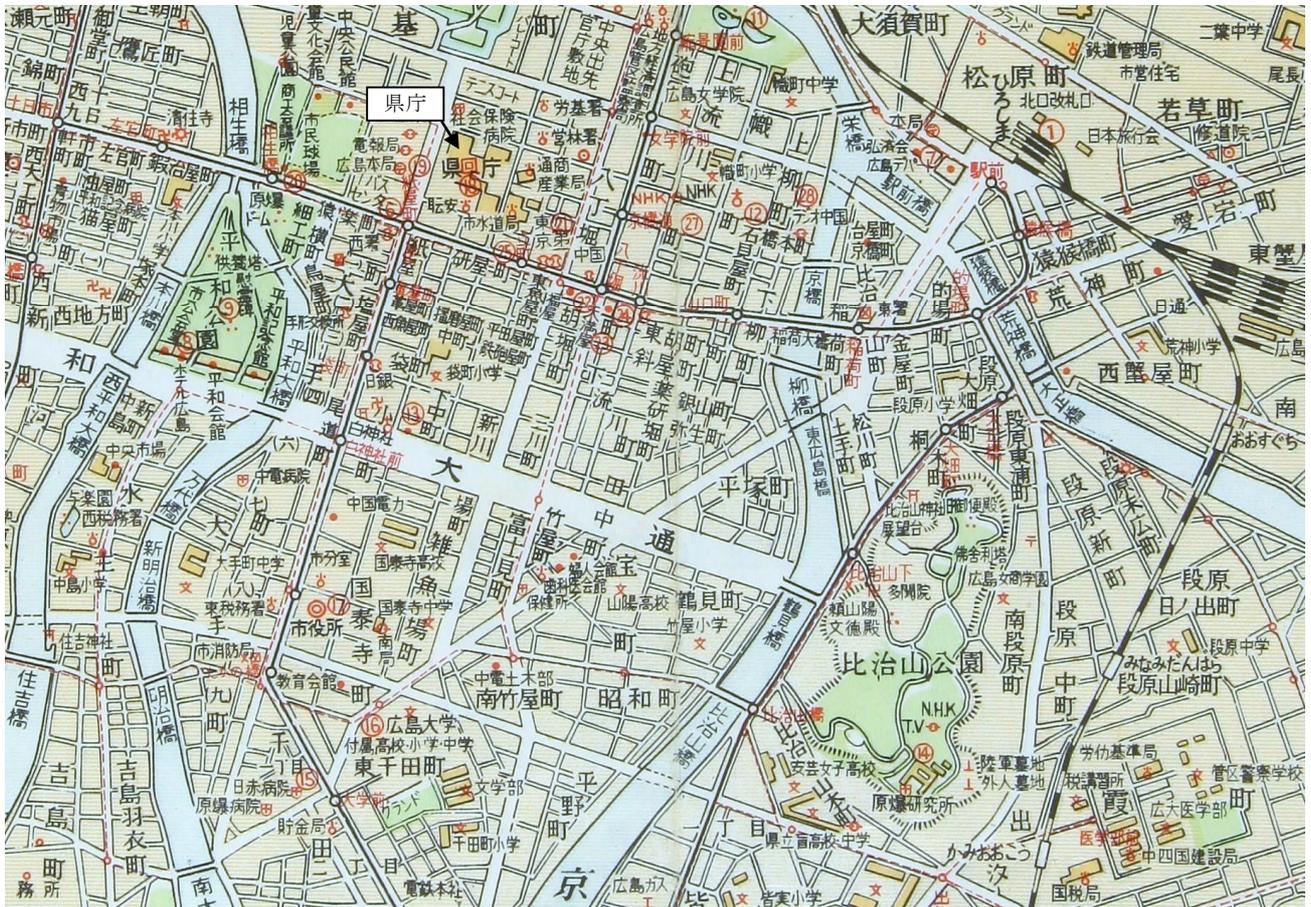
広島県は、戦後の早い時点で、基町の西練兵場跡地を将来の新庁舎建設地として予定しており、昭和22年4月に国から13,500坪の土地を借用した。戦後この場所は、市民運動場（野球場）や農耕地、商店、植樹場等に利用されており、農耕地等については、改めて県から地元の耕作実行組合に貸し付けられた。

昭和25年9月、県は国の意向を受けて、土地区画整理事業による県有地の換地としてこの土地を取得することになり、地元住民に土地の返還と立退きを求めた。住民から補償等の要求があって交渉は難航したが、27年末頃までには概ね解決し、28年11月19日、広島市長から県庁建設予定地として正式に換地の承認を受けた。この資料は、財政課の庁舎建築担当者が、その間の経緯をまとめて、大原博夫県知事らの幹部に供覧したものである。



25 広島市全域地図（複製・部分） 塔文社 昭和34年6月 [長船友則氏収集資料 200407-888]

広島県庁舎は、昭和31年4月に広島市基町へ移転し、霞町の旧庁舎は翌32年9月から広島大学医学部の校舎として利用された。この地図が出版された34年6月の時点では、中国四国建設局や広島国税局などの国の機関はまだ霞町にあったが、上八丁堀の「中央出先官庁敷地」と書かれた場所に合同庁舎の建設が進められており、翌35年に移転した。なお、戦前に県庁が所在した水主町には、昭和24年10月に広島市中央卸売市場が開場していた。



26 県庁舎建設予定地航空写真 昭和28年 [県行政文書（旧長期保存文書）100439 所収]

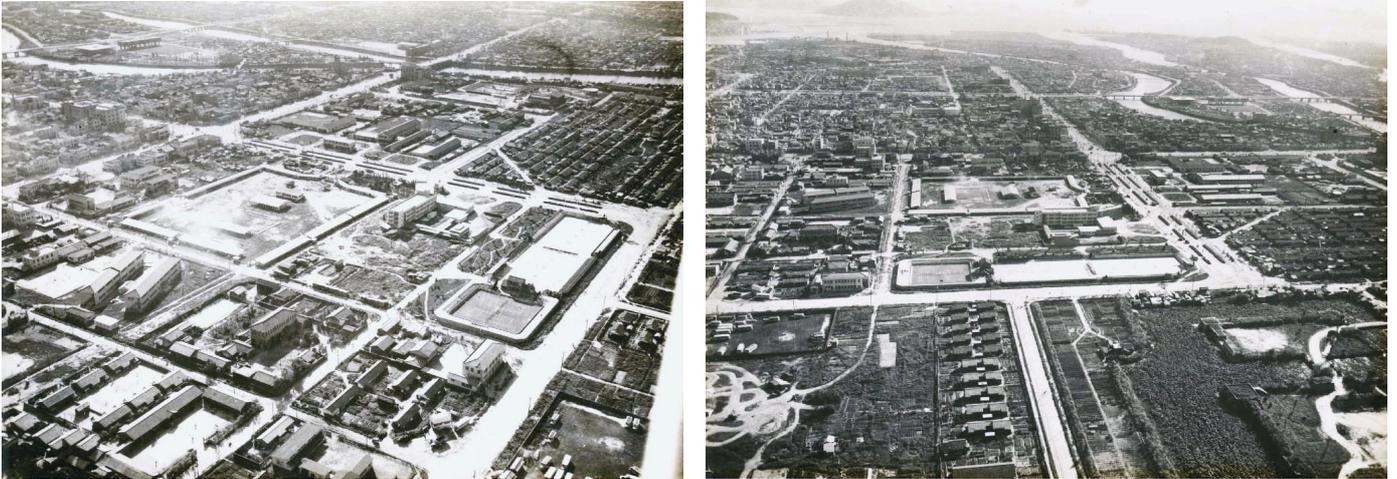
昭和28年に撮影された基町の新庁舎建設予定地の航空写真。

左の写真は西から撮影したもので、画面中央の方形の土地が県庁舎建設予定地。その左側には、昭和27年8月に開院したばかりの社会保険広島市民病院が見える。画面手前を左右に走る緑地帯2列の道路は現在の鯉城通りで、当時はマッカーサー道路とも呼ばれた。右の写真は南から撮影したもので、画面左下が紙屋町交差点。画面左上には広島城跡が見えるが、まだ天守閣は復元されていない。



27 県庁舎建設予定地航空写真 昭和28年 [県行政文書(旧長期保存文書)100439 所収]

左の写真は北東から撮影したもので、画面中央には県庁舎建設予定地と広島市民病院が、画面左奥には建設中の広島平和会館原爆記念陳列館(現在の広島平和記念資料館本館)が見える。右の写真は北から撮影したもので、画面手前(右下)の広島城跡から、画面奥の広島湾まで、復興が進む広島市街地を一望の下に収める。



28 昭和28年広島県定例議会議決録 昭和28年2~3月 [行政資料 0060-3659]

昭和28年広島県臨時議会議決録 昭和28年8月 [行政資料 0060-3692]

新庁舎の建設については、昭和27年に広島商工会議所から県議会へ請願書が提出され、28年2月定例県議会に県庁舎建築促進についての発議書が提出された。同年5月には、県議会議員11人と副知事を委員とする県庁舎建築調査会が設置され、7月の全体委員会で建築を承認した。これを受けて、28年8月臨時県議会に新庁舎建築の議案が提出され、満場一致で可決された。復興途上で県財政窮乏の折、工事方法及び財源等について十分検討する必要があったことから、県議会に県庁舎建築調査特別委員会が設置された。

29 広島県庁舎設計要領 昭和28年 [県行政文書 S01-90-293]

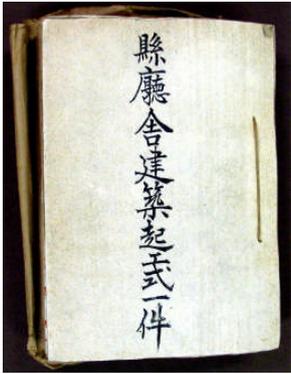
広島県建築部営繕課が作成した広島県庁舎設計要領。設計資料として、(1)広島県行政組織及び課別人員表、広島県分課及び事務文書規則抜すい、(2)広島市街地図、敷地付近航空写真5枚(うち4枚が資料26・27)、(3)敷地測量図・敷地高低測量図、(4)地層表が添付されている。



30 広島県庁舎建築工事起工式資料 昭和29年3月26日

[坊 敏之資料 200105]

昭和29年3月26日に開催された広島県庁舎建築工事起工式の資料。起工式は、午前10時から関係官公署の長、財界の大口寄付者、県議会議員、工事関係者らを招いて盛大に執り行われた。



31 県庁舎建築起工式一件 昭和 29 年 3 月

[県行政文書（旧長期保存文書）100400]

広島県庁舎建築工事起工式の企画及び施行に関する文書。大原博夫県知事の式辞や檜山袖四郎^{ひやまてしろう}県議会議長の挨拶文では、原爆被災以来 9 年間にわたる庁舎移転の経緯が述べられている。

32・33 県庁舎建築工事写真 [県行政文書（旧長期保存文書）100392 所収]

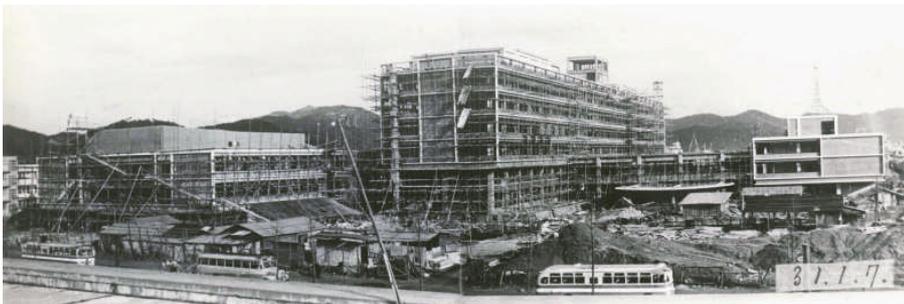


【上の 2 枚】

昭和 29 年 12 月（北から）

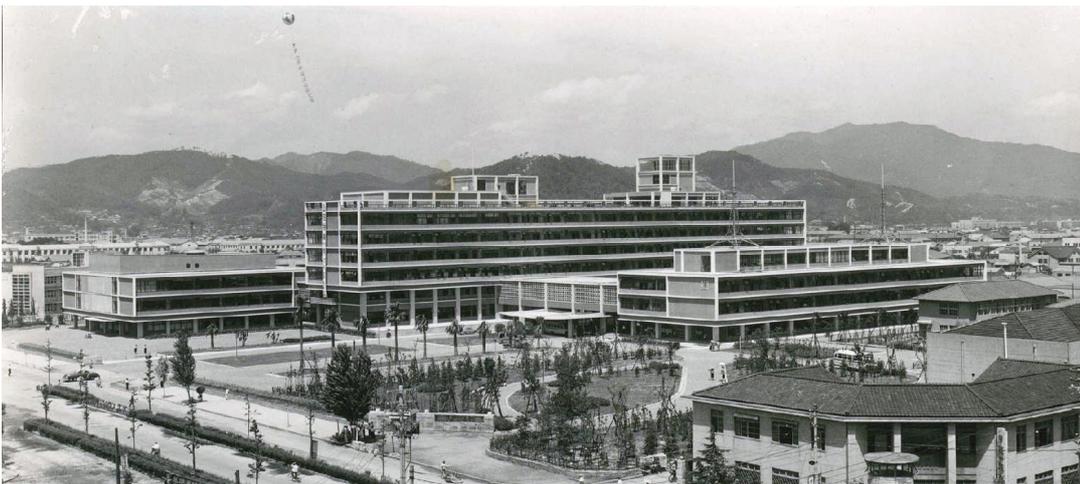


昭和 30 年 7 月 1 日（南から）



昭和 31 年 1 月 7 日（西から）

34 広島県庁舎（落成時，南西から）昭和 31 年 [坊 敏之資料 200105]



35 県庁舎から紙屋町交差点を望む（北東から）
昭和31年 [坊 敏之資料 200105]



36 広島県庁舎新築工事落成式資料
昭和31年4月19日 [坊 敏之資料 200105]

昭和31年4月19日午前10時から新庁舎の正庁（現在の講堂）で開催された広島県庁舎新築工事落成式の資料。大原博夫県知事は、これを契機に一層県政の進展に献身したいと挨拶した。また、落成を記念して、2階ギャラリーで郷土作家絵画展覧会が開催され、小林和作や船田ぎよくじゅら51人の作品が展示された。新庁舎は19・20日の2日間県民に開放され、5万人が見学に訪れた。



37 読売新聞広島版記事「新県庁舎 きょう喜びの落成式」（複製）昭和31年4月19日
[坊 敏之資料 200105]

新庁舎の落成式に関する読売新聞広島版の記事。2,300個の蛍光灯を点灯させた新庁舎の夜景写真を掲載し、その様子を「復興広島のシンボル さながら大洋をゆく豪華船」と伝えている。



38 県庁舎建築事業計画書 昭和29年度
[県行政文書（旧長期保存文書）100398 所収]

昭和29年度県庁舎建築費予算要求書に添付された県庁舎建築事業計画書。新庁舎の建設は、28～30年度の3か年継続事業として、予定価格9億7千万円で計画され、その財源として県費2億円（うち1億円は宇品県有地の売却代金）、起債6億円、寄付金1億7千万円を見込んだ。



39 県庁舎寄附一件
昭和31年度
[県行政文書（旧長期保存文書）100398 所収]

寄付金の分担については、市町村長、同議長、県議会議員、学識経験者（財界）、県職員によって構成された広島県庁舎建築促進委員会において協議され、市町村分1億円、財界分7千万円の目標額が定められた。県職員組合も給料の1,000分の5を30か月間任意寄付することを決めた。寄付申込総額は目標を上回る2億3千万円に達し、財界からの寄付は1億1千万円を超えたが、市町村分については厳しい財政環境の中で納付が昭和32年度までずれこんだ。



40 『建設工業通信』第9巻第10号 昭和31年4月10日
 41 『建築文化』119号 昭和31年10月1日
 [坊 敏之資料 200105]

新庁舎は、日建設計工務株式会社が設計し、大成建設株式会社が施工した。設計上の特徴は、地盤の悪いデルタ層に杭打ちなしで6階建てを可能にした浮函工法と、主要事務室を南面させた並列配置である。建物と調和した庭園の設計にも意が尽くされた。広島県は、県庁舎工事監督事務所を設けて監理に当たり、昭和29年3月に着工、昭和31年2月末に完成した。工事は、延べ110万時間無事故という、当時の建築業界の新記録を樹立した。



42 御案内 広島県自治会館
 43 広島県自治会館竣工写真
 昭和31年4月
 [坊 敏之資料 200105]

広島県自治会館は、県庁舎構内の北東隅に建築され、県庁舎とともに竣工した。竣工写真は、県庁舎の上（南西方向）から二葉山方面を望んだもので、復興が進む庁舎周辺の状況がうかがえる。

44 広島県庁舎（東館落成後、西から）昭和61年4月 [県行政文書（広報写真）S05-2002-3402]



45 広島県庁舎（航空写真、南西から）平成5年 [県行政文書（広報写真）S05-2008-6-2]



■ 主要参考文献

- ・『広島県議会史』第六巻 広島県議会 昭和40年5月
- ・『広島原爆戦災誌』第三巻 広島市 昭和46年10月
- ・『戦後五十年広島県政のあゆみ』 広島県 平成8年3月
- ・『平成13年度 収蔵文書展 広島戦後の記録 1945-1970』 広島県立文書館 平成13年10月
- ・森岡由紀子氏「霞町はどんな町だった？ 県庁があったんだった」（『広島美奈美国風土記』No.14 南区魅力発見委員会 風土記編さん部会）平成24年9月